

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	① 明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 学習者用端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	① 児童アンケート項目「すすんで学習している」では、肯定的な回答をした児童の割合が約73%であった。一方、「分からない」と答えた児童の割合が14%であり、どのような状態が「すすんで学習している」のか分かっていない様子があるため、授業ごとに何を学ぶかを明確にする必要がある。 ② 児童アンケート項目「文章をすすんで書いている」では、否定的な回答をした児童が15%いる。また、「読書にすすんで取り組んでいる」では、否定的な回答をした児童が16%いる。文字を書くこと・文字を読むことに、苦手意識がある児童が一定数いることが分かった。	① <u>学習のねらいを明示し、学習で分かったこと・できたことを全体で発表したり、ペアで交流したりする。また、ノートやワークシート、ICT 機器を活用して言葉での振り返りを行うようにする。</u> ② <u>短作文指導を継続的に行い、書くことの習慣化を図る。また、定期的な読み聞かせ等を通して語彙力の向上を図る。また、ICT 機器を用いた一人一人の読書の推進を行う。ICT 機器を用いて教師がモデル文を提示したり、児童の作成物を共有・比較したりすることで、学ぶことを明確化し、児童の学びを深めていく。</u>
算数	① デジタルドリルの活用による基礎学力の定着 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 学習者用端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	① 児童アンケート項目「すすんで学習している」では、肯定的な回答をした児童が66.9%いた一方、否定的な回答をした児童の割合が22.3%と多くおり、苦手意識を持っている児童が多くいることが分かった。また、「分からない」という回答をした児童も10.7%いた。5や10の合成分解を苦手としている児童が多くいるため、反復の学習を繰り返しながら、苦手意識の解消を行っていく。 ② 授業では、自分の考えたことを図で表現したり、友達に伝えたりする活動を苦手と感じている児童も少なくない。自分の考えや思いの伝え方が分からず苦手意識をもっている児童が多いと考えられる。	① <u>2学期以降は、ワークテストと東京ベーシックドリルの活用を始め、児童の実態を細かく把握する。またデジタルドリルを繰り返し取り組むことや個別学習に活用することで、苦手に感じている児童の抵抗感を低くし、「できた」を実感しながら意欲的に取り組むことができるようにする。</u> ② <u>式や図、言葉での表し方の模範を児童に示すことで、表現の仕方を学べるようにする。また、意見を交流できるよう ICT 機器を活用した共有を行い、自分の考えを深めたり、考えを式や図、言葉を使って表現したりすることができるようにする。</u>
生活	① 明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底、「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 学習者用端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	① 毎時間の活動ごとに振り返りを丁寧に行うことで、学校のことや地域の安全、自然への気付きを感じることができた。児童アンケート項目「すすんで学習している」では、肯定的な回答をした児童が77.7%おり、意欲的に学習に取り組んでいる。否定的な回答をした児童の割合は10.7%であった。 ② 学校探検やアサガオの栽培などの具体的な体験や活動に意欲的に取り組み、知ったことや観察したことを生活科カードに書くことができた。一方、観察したことを絵や文で表現することが難しい児童がいる。	① <u>活動のねらいを達成できた実感できるように、観察カードやワークシート、ICT 機器を活用して振り返りを行う。グループや全体での交流を通して視点を広げたり考えを深めたりして、自分自身とのつながりを感じられるようにし、生き方に活かそうとする態度に価値付けを行っていく。</u> ② <u>ICT 機器を活用してワークシートや観察カードなどを撮影・保存し、いつでも見返すことができるようにする。また、季節の生き物の写真を撮り、友達同士で交流する活動を取り入れ、協働的な学びを実現する。</u>
音楽	① 明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底、「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 学習者用端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】	① 児童アンケート項目「すすんで学習している」では、肯定的な回答をした児童の割合が80%であった。このことから多くの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。一方、否定的な回答をした児童が14%いる。また、「分からない」という回答をした児童の割合が6%であった。高い意欲を維持したまま、苦手意識のある児童の底上げを行っていく。 ② 鍵盤ハーモニカでの手の動かし方や、拍の取り方が苦手な児童もおり、機器を活用し、手本を見ながら学ぶことが必要である。	① <u>活動を始める前の説明を、口頭のみではなく、「めあて」や「活動内容」などを絵や図などを黒板に貼ったり、モニターに写したりしながら、視覚で伝わるよう工夫し、児童が学習に集中して取り組めるようにする。</u> ② <u>デジタル教科書、書画カメラ等の ICT 機器を活用し、スモールステップで学ぶことを繰り返し、技能の習熟を図る。映像を活用し、ゴールの姿をイメージしてから学習に取り組むようにする。机間指導や、グループごとの発表・個人での発表などを行いながら、習熟の確認を行っていく。</u>

<p>図画 工作</p>	<p>① 明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底、「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② 学習者用端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「すすんで学習している」では、肯定的な回答をした児童の割合が 84%であった。多くの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。一方、否定的な回答をした児童の割合が 8%であり、「分からない」という回答の割合が 8%であった。</p> <p>② クレパスや色鉛筆で色塗りをしていても、すぐに飽きてしまったり、きれいに塗ったりすることができない児童もおり、教材の工夫が必要である。児童の関心が高まる教材を探し、工夫していく必要がある。</p>	<p>① 絵の具やクレパスの他に、素材の形や質感を生かした造形遊びなど、表し方や用具・材料の扱いに慣れるための活動を充実させ、児童が学ぶ楽しさを実感しながら図画工作のめあてに向かってすすめられるようにする。</p> <p>② 自分の作品について、ICT 機器を活用して学習のめあてに対する成果や課題を捉え、振り返りができるようにする。友達の作品についても ICT 機器を活用することで互いに鑑賞できるようにする。</p>
<p>体育</p>	<p>① 明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底、「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② 学習者用端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 児童アンケート項目「すすんで学習している」に対して、肯定的な回答をした児童の割合は 82%であり、日常的に体を動かすことへの意識が高い一方で、否定的な回答をした児童も 14%いた。また「わからない」と回答した児童の割合が 4%であった。全体的に意欲的であるが、1 割強の児童は、苦手意識があるようである。</p> <p>② 自分の身体の動かし方を把握することや想像するが困難である。自分の体の動きを客観的に見る必要がある。</p>	<p>① 単元ごとに学習のゴールの姿を示しながら、授業の導入には個人<u>のめあてを確認し、終末にその振り返りを行う</u>。それらを繰り返して、何を学び自分がどのように成長しているのかを一人一人がより分かるようにする。</p> <p>② 動画撮影を多くの授業で活用していくが、特に器械運動系（鉄棒遊び、跳び箱遊び、マット遊び）の運動遊びの際には、個人の動きを確認できるようにする。</p>
<p>道徳</p>	<p>① 明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底、「わかる」授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】</p> <p>② 学習者用端末を活用した学習の充実 【ICT 機器の活用】</p>	<p>① 登場人物の心情に、寄り添って考えることのできる児童が多い。発達段階的には、自分自身について客観的に捉えることが難しい児童も多い。そのため、自分自身について丁寧に振り返る必要がある。</p> <p>② 複数の登場人物がいると、どの人物の心情について考えているのか迷ってしまう児童もいるため、教材の提示に工夫が必要である。授業の導入時に児童の関心を引き付ける工夫をする必要がある。</p>	<p>① 授業の後段において、自己を見つめる時間を毎時間確実に設定し、これまでの自分の行動などについて丁寧に振り返ること で、今後の実践意欲につなげていく。</p> <p>② 授業の導入や、範読、場面絵の提示など、ICTを活用しながら、<u>効果的な教材提示を行い</u>、道徳的価値に迫る授業展開を図る。</p>